自己評価シートのまとめ　　令和７年度

１．保育の計画

　ほとんどの保育士が、１・２（よくできている・まあまあできている）が多い。
保育の計画では、どの職員にも浸透してきている様だ。研修にも参加することが多く、レベルは、上がってきているが、中堅以上の職員が気付きも多く客観的に見られる。

　未満児クラスは、成長が目に見えるような速さなので、計画を達成できていることが多かった。また、落ち着いた保育の中で、遊びが出来るよう工夫している計画が多かった。

　年長児クラスは、行事も多く忙しかったが、綿密な計画の上に自然に取り入れながら、保育に取り組んでいる姿があった。

２．保育の在り方　幼児への対応

　全体的に１・２（よくできている・まあまあできている）が、ほとんど。
全クラス複数担任のため、子ども達のきめ細かな要求も余裕をもって受け入れることができた。

３．保育者としての資質や能力・良識・適性

　全体的に１・２（よくできている・まあまあできている）が多い。１年目の職員も実践をふまえ、徐々に保育者としての資質や能力を身に付けているようだ。リモート研修から、対面での研修が出てきたが、外部の研修への機会を多くし、学びの機会を増やしていきたいと思う。

４．保護者への対応・守秘義務

　全体的に守秘義務は守られていると思う。非常勤の職員は、対応する機会が少ないが、会議などで話し合い周知徹底しているので、守秘義務は守られている。

　未満児は連絡帳、また、病状を伝える時は、アプリ・電話等を使ってきめ細かに伝えている。
以上児は、連絡帳の対応が少ないので、クラスだよりを定期的に発行するようにしている。

　育児経験がない職員は、机上の勉強だけでは質問に応えられないところがあったので、先輩のアドバイスを受けながら保護者対応をしている。

　保護者への対応も相手を受容し、納得がいくように話し合いができた。

５．地域との関わり

地域の巨勢まつりや文化祭に出演し、和太鼓や盆踊りなどを披露している。

また、自治会が中心となり、一人暮らしのお年寄りを園に招待し、子ども達との交流を続けている。子ども達とのふれあいを楽しみにされている。

６．保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度

県保育会や私立保育園会、市保育幼稚園会の研修になるべくたくさん参加をし、研鑽を積む。

当園での園内研修をなるべく行った。

７．３歳児保育の在り方、３歳未満児への対応

教育は勿論養護に重きをおきながら、一人ひとりの成長や発達に対応が出来たという評価が多い。非常勤やパートの職員に子育ての経験が豊富な者が多く、未満児クラスの補助を担うことが多い。

気になる子ども達もいるので、家庭との連携を取りながら、しっかり保育をしていくことが、求められた。

８．地域における子育て支援

巨勢地区では、今でも若い世帯のマイホーム建設が多く、巨勢地区からの子育て支援参加者が増えた。

常勤で子育て支援担当者を２名配置しているが、地域に広かれた保育園を目指し、サロンや相談・園庭開放に取り組んでいる。

また、地域のサークル活動への支援も多くなり巨勢地区ばかりではなく、佐賀市内各所を巻き込んだ活動に代わっている。